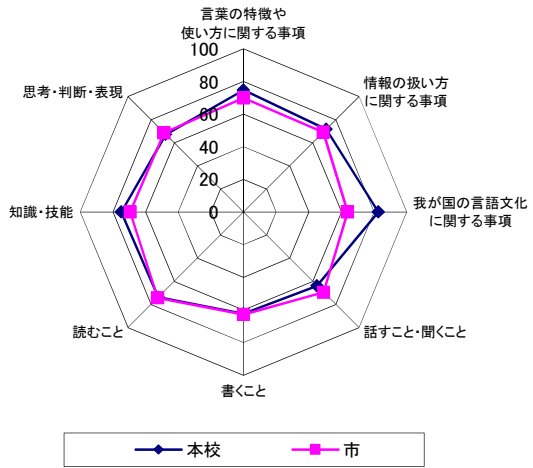


宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	74.7	69.9	72.3
	情報の扱い方に関する事項	71.7	69.2	73.0
	我が国の言語文化に関する事項	82.6	63.8	66.0
	話すこと・聞くこと	63.8	69.5	71.5
	書くこと	62.3	62.8	67.1
	読むこと	73.9	74.4	73.7
観点別	知識・技能	74.8	69.4	71.9
	思考・判断・表現	67.2	68.8	70.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

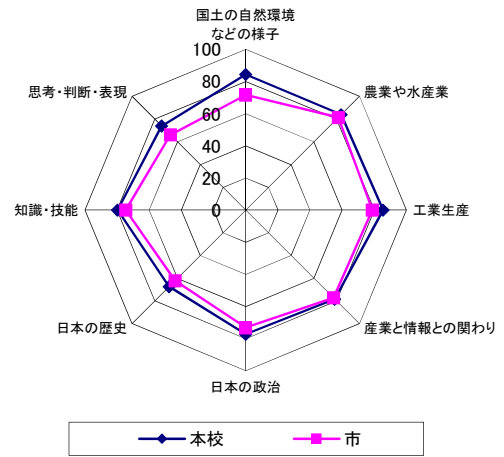
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を4.8ポイント上回っている。 ○11問ある本領域の設問中、8問において市の平均正答率を上回っており、漢字の読み書きや使い方、言葉の使い方等がある程度定着していると言える。特に敬語の使い方の正答率は100%であった。 ●漢字の読み書きを問う設問では、問題によって正答率のばらつきが見られ、市の平均を10ポイント下回る設問も見られた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・漢字の読み書きや言葉の使い方など、繰り返し練習して身に付ける取り組みを継続していく。また、ノートを書くなど日頃の活動の中で既習事項を活用する機会を設けることで、学習内容の定着を図っていきたい。
情報の扱い方に関する事項	平均正答率は、市の平均を2.5ポイント上回っている。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する設問は、正答率が87.0%であり、市の平均を3.2ポイント上回っている。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて、文章を簡単に書く設問では、正答率が56.5%で市の平均を1.9ポイント上回ったものの、十分とは言えないことから、更なる向上が望まれる。	・情報を正しく読み取ることができるよう、理由や事例を挙げる際のキーワードを意識して文章を読む機会を設け、継続的に支援を行っていく。また、情報と情報を関連付けながら、適切に文章をまとめる力を伸ばしていけるよう、資料や情報を読み取ったことを伝え合ったり、簡潔にまとめたりする活動を各教科で設けるようにする。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は82.6%と高く、市の正答率を18.8%上回った。 ○語句の由来について関心が高く、興味をもって学習に取り組んでいることが、和語、漢語、外来語について理解が深まることにつながっていると考えられる。	・今後も児童の語句に関する興味関心が高まよう、授業や発問を工夫し続けることで、より児童の学習に対する意欲の向上を目指す。
話すこと・聞くこと	平均正答率は63.8%で市の正答率を5.7%下回った。 ○話の内容を捉える設問については、市の平均を10%以上上回った。 ●話すこと聞くことに対する意図を問われた設問については、市の平均を下回った。普段から、会話の意図を明確にするためにはどのような工夫をしたらよいか、実践を積み重ねながら理解を深めていく必要がある。	・普段から会話の意図を意識して話をさせたり、話し合い活動を積極的に取り入れたりすることで、工夫して会話する機会・経験を多く積ませていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○6問ある該当問題のうち、4問は市の平均を上回っている。自分の意見とその理由を明確にして書く設問は、市の平均を7.1%と大きく上回っている設問もあった。 ●予想される反論とそれに対する意見を書く設問では、市の平均より14.3%、全国平均より21.3%下回っており、課題であると言える。	・各教科において、タブレット端末を活用した取組を継続し、自分の考えを言葉にする活動を多く取り入れた学習を実践する。 ・ディベートやプレゼンテーションを様々な場面に取り入れることで、自他の意見を尊重したり客観的に考察したりする力を養うようにする。
読むこと	平均正答率は、市の平均を0.5ポイント下回っている。 ○説明文の文章全体の構成を捉える設問では、市の平均より8.3%も上回っている。 ●説明文の記述を基に文章の内容を捉える設問では、市の平均より8.7%も下回っている。	・序論・本論・結論の構成を全体的に捉えることができているため、形式段落ごとの筆者の考えを箇条書きにする活動を取り入れた上で、意味段落の要点を抑えるよう、丁寧な読み取りをしていく。 ・形式段落、意味段落を抑えた上で、筆者の伝えたい思いを自分の言葉で書く活動を行い、文章の本質を捉えられるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	84.3	71.6	67.5
	農業や水産業	84.1	81.5	82.1
	工業生産	85.5	78.7	70.8
	産業と情報との関わり	78.3	77.2	68.2
	日本の政治	77.2	73.1	77.9
	日本の歴史	67.4	62.0	65.8
観点別	知識・技能	79.7	74.6	74.5
	思考・判断・表現	73.9	66.2	65.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

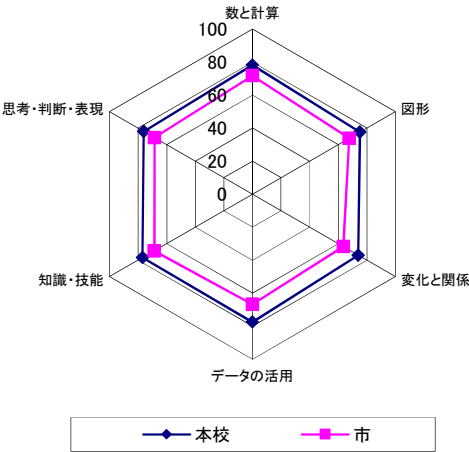
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	平均正答率は、市の平均を12.7ポイントと大きく上回っている。 ○資料に着目して、森林の働きを捉え、表現する問題では、市の平均を18.6ポイントと大きく上回っており、学習内容の定着が見られる。 ○日本の主な地形の名称と位置の理解をもとに、地図を読み取る問題では、市の平均を28.1ポイントと大きく上回っており、学習内容がよく理解されている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・日本の主な地形、名称と位置など、知識的な内容は白地図などを活用して身に付けられるように繰り返し確認する機会を設ける。 ・地形と気候、人々の暮らしなどを関連付けて説明する学習活動を引き続き設定し、体系的な知識の育成を図る。
農業や水産業	平均正答率は、市の平均を2.6ポイント上回っている。 ○「日本の食料生産」に関する3つの設問において、全てで市の平均を上回っている。 ○都道府県の位置と農産物の産地の理解をもとに、適切な地図を判断する問題では、市の平均を7.4ポイント上回っている。	・地図と統計資料などを関連付けて、現状を整理したり、資料を根拠に課題解決に向けた取り組みを考えたりする活動を取り入れ、資料を活用する力の向上を図る。 ・地産地消の取り組みの理解にも、SGDsの観点を取り入れながら、更に理解が定着するように継続した指導を行っていく。
工業生産	平均正答率は、市の平均を6.8ポイント上回っている。 ○キャリアカーと船に着目して自動車の出荷の工夫を表現する設問では、正答率が82.6%であり、市の平均をおよそ20ポイント上回っている。 ●資料を読み取って正しいものを2つ選ぶ設問では、間違えた17.4%の児童はみな、1つは正しく選んでいる。	・工業生産を行うための人々の努力とその結果を、関連付けて考えられる学習活動を工夫する。文章で表現する活動を意図的に設定し、さらに力を伸ばす。 ・複数の資料を比べて共通点や相違点を見つけたり、総合的に見たりして、適切に調べまとめる力をつける。
産業と情報との関わり	平均正答率は、市の平均を1.1ポイント上回っている。 ○メディアの特徴に関する設問では、正答率が90%を超えており、十分に定着していると言える。 ●コンビニエンスストアで情報を活用する利点を考える設問では、正答率が65.2%で市の平均を2.4ポイント上回ったが、他の設問に比べて正答率が低い。	・学習課題に対して資料を基に、自分なりの予想を立て、仲間と話し合う活動を取り入れ、より確実な理解を促せるようにする。
日本の政治	平均正答率は、市の平均を4.1ポイント上回っている。 ○日本の政治について、図に着目して、国民による政治の仕組みを判断する問題や、税金についての理解を問う問題では、市の平均を上回っている。 ●基本的人権の尊重について、生活の中の具体的事例をもとに判断する問題では、市の平均を2.1ポイント下回った。	・日本の政治の仕組みについて、関係機関の役割や簡単な政治の用語を理解した上で、図の流れを確認したり、身近な生活と結び付けて考えたりするようにする。 ・問題で取り上げられた生活の中の具体的事例が、どのような場面なのかを把握できるよう、文章の読み取り力を高める。
日本の歴史	平均正答率は、市の平均を5.4ポイント上回っている。 ○鎌倉時代の、北条政子の訴えについての理解をもとに、年表を読み取る問題では、市の平均を上回っている。また、安土桃山時代、江戸時代のできごとについて、適切な見出しを判断する問題でも、市の平均を上回っている。 ●奈良時代の資料に着目して、日本の文化に遣唐使が与えた影響を考え、表現する問題では、市の平均を上回ったものの、正答率は43.4%と低かった。	・歴史の学習においても、地理的な空間認識をもとに問われるものもあるので、必要に応じて地図を用いる学習を取り入れるようにする。 ・空欄を補充する問題では、資料から読み取ったことを言葉で表現する力が求められることから、必要な情報を正確に読み取り、キーワードでまとめる学習を行い、解答する力を高めるようにする。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.3	71.8	76.2
	図形	75.2	67.7	67.8
	変化と関係	73.9	63.4	62.7
	データの活用	77.5	66.7	61.5
観点別	知識・技能	77.0	68.6	70.7
	思考・判断・表現	76.1	68.5	66.0

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

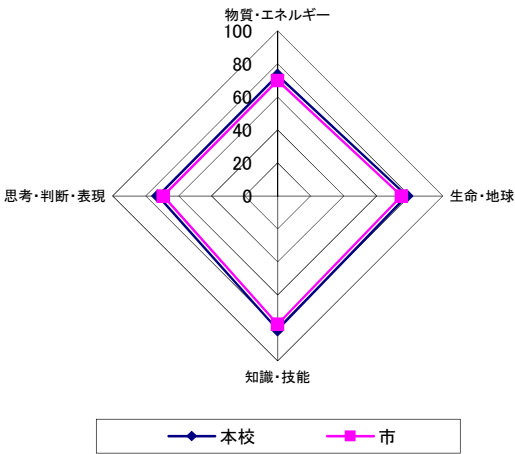
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を6.5ポイント上回っている。 ○小数の割り算や分数の計算では、どれも正答率が90%以上であり、市の平均を大きく上回っている。 ●小数のかけ算の計算をする設問では、正答率が65.2%で、市の平均を1.3ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・朝の学習の時間等を活用して、基本的な計算の定着に向けた繰り返し練習を継続していく。 ・計算だけでなく、問題文から数直線に表したり、そこから立式したりする活動を多く取り入れることで、図を用いて思考する力を育み、数量関係への理解が深まるようにする。
図形	平均正答率は、市の平均を7.5ポイント上回っている。 ○三角形の面積を求める設問では、正答率が100%で、市の平均を17.7ポイント上回っている。 ○正五角形の作図方法から、円の中心の周りにできる角の大きさを求める設問では、正答率が78.3%で、市の平均を10.4ポイント上回っている。 ●正八角形に対象の軸は何本あるかを答える設問では、正答率が52.2%で、市の平均を3.7ポイント下回っている。	・正多角形の特徴の理解を定着させるために、体験的な学習を通して特徴を整理する活動を積極的に取り入れる。
変化と関係	平均正答率は、市の平均を10.5ポイント上回っている。 ○速さの単位の関係を理解し、時速を秒速や分速に直す設問では、正答率が市の平均を18.5ポイント上回っている。 ●基準量と比較量から割合を求める設問では、正答率が56.5%で市の正答率より6ポイント上回っているが、他の設問より正答率が低い。	・基準量や比較量、割合の意味を正しく理解できるようにするために、式の意味を考えたり、実生活と結び付けた問題に取り組んだりする活動を積極的に取り入れる。
データの活用	平均正答率は、市の平均を10.8ポイント上回っている。 ○資料を読み取る設問では、どれも市の平均を10ポイント以上上回っている。 ●帯グラフを読み取って、自分の考えを述べる設問では、正答率が39.1%で市の正答率より4.6ポイント上回っているが、他の設問より正答率が低く、論述することに更なる向上が望まれる。	・自分の考えを適切な言葉で表現することができるようにするために、友達との意見交換や考えを発表する場を多く設定する。

宇都宮市立上河内東小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	73.0	69.9	67.8
	生命・地球	78.3	75.1	73.7
観点別	知識・技能	81.0	77.8	78.4
	思考・判断・表現	72.5	69.4	66.2

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を3.1ポイント上回った。 ○ふりがが1往復する時間とふれはばの関係を比べるために必要な条件を選択する問題では、正答率が87%と市の平均を18ポイント上回った。 ○アルミニウムと塩酸が反応してできたものとアルミニウムを区別する方法を問う問題では、正答率が87%と市の平均を8.9ポイント上回った。 ○二酸化炭素が増えたことを石灰水を用いて調べることを指摘する問題では、正答率が82.6%と市の平均を11ポイント上回った。 ●電流の強さと、電磁石のはたらきの大きさの関係を調べるために必要な条件を選択する問題では、正答率が47.8%と市の平均を9ポイント下回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験を行うだけでなく、なぜそのような現象が起きたり、結果が出たりするのかについてじっくり自分で考える時間を確保し、考察につなげるようにする。
生命・地球	平均正答率は市の平均を3.2ポイント上回った。 ○ホウセンカの茎を縦に切った断面がどのようになっているか問う問題では、正答率が91.3%と市の平均を13.3ポイント上回った。 ○植物に取り込まれた活力剤が根・茎・葉に運ばれていること分析する問題では、正答率が95.7%と市の平均を9.7ポイント上回った。 ●種子の発芽に水が必要かどうかを調べるために必要な条件を選択する問題では、正答率が69.6%と市の平均を5.6ポイント下回った。	・実験を行う際に必要な条件や道具などを児童に考えさせたり、実験後に振り返らせたりする時間を十分にとることで、知識の定着を図る。

宇都宮市立上河内東小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・振り返りの質を高める指導法の研究	・各単元の終末を中心とした時間で、何が分かったのか、何が疑問点なのかを様々な方法で振り返らせ、主体的な活動を促すとともにその指導法を研究し共有していく。	「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる。」についての肯定割合は5, 6年生で90%以上であったが、3, 4年生ではもう一歩であった。
・主体的・対話的に課題に取り組んで解決していくための取組	・朝の会などに「スピーチの時間」を設け、話す・聞く経験を重ねられるようにする。	「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」の肯定割合は、1, 3, 5, 6年生で90%以上であった。

★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

・5, 6年生は、国・県・市の調査ともに「授業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」等の書くことの質問や、「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」等の話し合うことの質問について、肯定割合が90%近く、主体的・対話的に課題に取り組み解決する力の育成に取り組んできた結果であると考えられる。一方で、市の調査の6年生国語「話すこと・聞くこと」や「書くこと」の正答率は参考値を下回っていることから、目的に沿って書くことや大事なことを落とさず聞くことなど正確さの育成に努める。

・国・県・市の調査ともに、パソコンを使って学習の情報を得ることや調べたことをまとめることへの肯定割合は、3, 5, 6年生で平均を大きく上回っている。次年度は、ICTの効果的な活用についてさらに研究を進め、学習の効果が確実なものになるような指導を充実させる。